

閉会の挨拶



小泉 明（日本医学会副会長）

閉会にあたり一言ご挨拶申し上げます。本日は第125回日本医学会シンポジウムで「アルツハイマー病」というテーマが取り上げられましたところ、多数のご参加を得まして盛大なシンポジウムになりましたことに厚くお礼申し上げます。

午前中の「臨床の話題」では、病態、病像についての斬新な知見をお話いただき、午後の「基礎の話題」では、その病態、病像を裏づける基礎的な研究についてのお話をいただきました。その多くが日本で行われたご自身の研究を中心にご披露いただいたことも、印象深く存じました。引き続いての「治療と介護の進歩」も、同じく演者ご自身のご研究、ご経験からのお話でございまして、日本のアルツハイマー病に関する研究のレベルが大変高いことについて心強さを感じた次第でございます。ここでは「家族の会」という社会医

学的な側面からのご検討も聞かせていただきました。おそらく日本医学会シンポジウムで、こういう社会的な点を、演題として系統的にお話しいただいたのは初めてではないかと画期的に思いました。充実したシンポジウムを持つことができたと思います。

このような充実したシンポジウムを企画していただき、また座長として、さらに総合討論の司会者としてご尽力いただいた金澤先生、井原先生、朝田先生に心からお礼を申し上げます。また水準の高い、しかも斬新な研究成果をご報告いただいた演者の先生方、そしてまた質疑応答を含めて非常に熱心に長時間ご協力いただいたフロアの方々に心から厚くお礼を申し上げます。これをもちまして本日のシンポジウムを終了させていただきます。どうもありがとうございました。